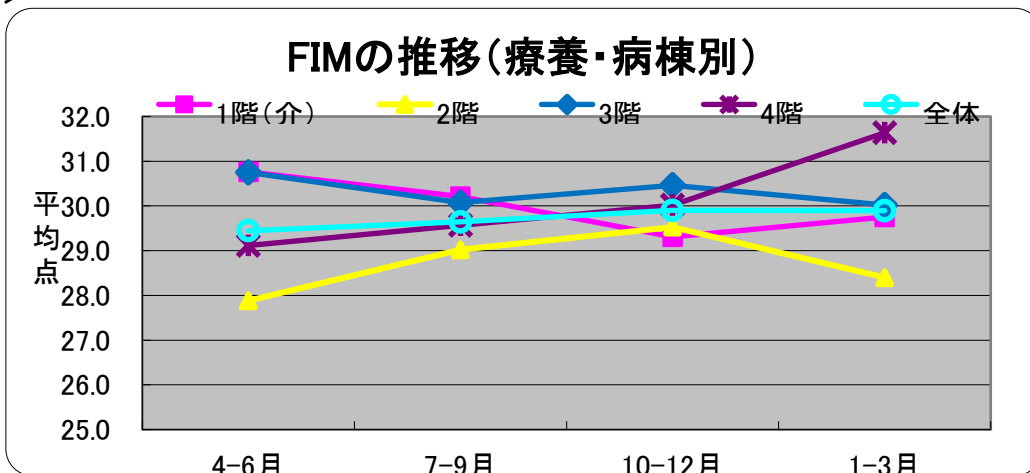


平成25年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

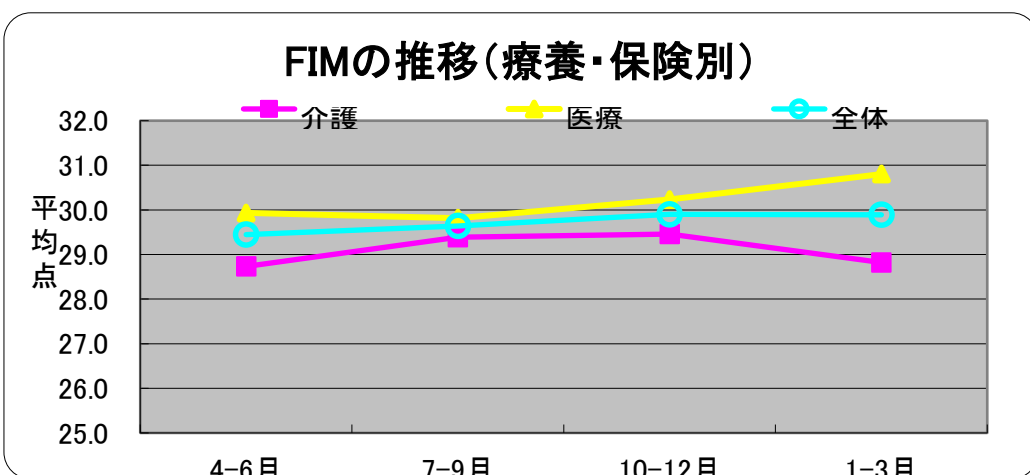
<対象>

- ・ 平成25年4月1日から平成26年3月31日の間で3ヶ月以上の入院患者
 - ・ 2回以上FIM評価を実施した212例
 - ・ 年齢：84.0±9.1歳
 - ・ 性別：男性75名、女性137名
- ※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者

<結果>



病棟別	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
1階(介)	30.8	30.2	29.3	29.8
2階	27.9	29.0	29.5	28.4
3階	30.8	30.1	30.5	30.0
4階	29.1	29.6	30.0	31.6
全体	29.4	29.6	29.9	29.9



保険別	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
介護	28.7	29.4	29.5	28.8
医療	29.9	29.8	30.2	30.8
全体	29.4	29.6	29.9	29.9

<まとめ>

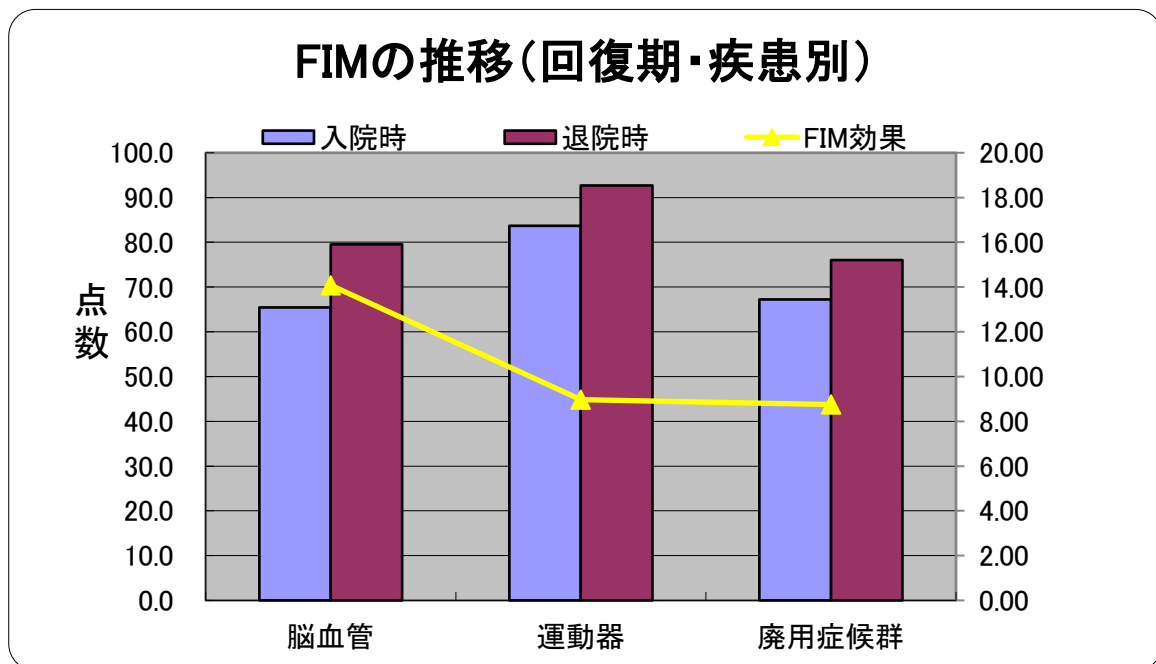
病棟別比較では、1階～3階では浮き沈みがあるも、4階では順調な向上(29⇒31点)がみられる。また、保険別の比較では、医療病棟の右肩上がりに対して、介護病棟では逆に右肩下がりとなっている。全体的には微増傾向であり、療養病棟入院患者のADLが維持されていることが窺える。

平成25年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

<対象>

- ・ 平成25年4月1日から平成26年3月31日の間で、入院から退院まで至った患者
 - ・ 回復期病棟の入院時と退院時でFIM評価を実施した80例
 - ・ 年齢：79.0±9.9歳
 - ・ 性別：男性29名 女性51名
- ※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者

<結果>



	脳血管	運動器	廃用症候群	全体
入院時	65.4	83.7	67.3	74.2
退院時	79.5	92.7	76.0	85.6
FIM効果	14.08	8.97	8.75	11.39
FIM効率	0.11	0.11	0.24	0.11
年齢	77.2	80.7	78.8	79.0
在院日数	110.1	70.3	81.0	89.8

<まとめ>

脳血管は廃用症候群に比べ、入院時こそ低い値となっているがFIM効果は1.6倍と高く、退院時には逆転している。運動器は入院時、退院時ともに他の疾患より高値を示すが、FIM効果は脳血管に比べて低くなっている。

FIM効率については全体的に低く、在院日数も高い数字であることから、この点が当院における今後の課題と思われる。

資料

【全国平均】			
	脳血管	運動器	廃用症候群
入院時	68.9	82.7	66.1
退院時	86.4	98.8	77.2
FIM効果	17.5	16.1	11.1
年齢	71.8	78.4	79.2
在院日数	89.1	56.6	57.2